旭 自治会　だより

令和６年２月１日　第 72 号 発行 旭自治会
ＴＥＬ：０７７１－２２－５５３３
ＨＰアドレス：kameoka-asahi.com（ＱＲコード）

春にはまだ遠く

２月の訪れは毎朝のまだまだ寒いスタートからです。そろそろ立春の候とはいうものの、春の兆しはまだ遠い時期ですが、旭町の皆様には日々如何お過ごしでしょうか。

令和６年１月は、元日に発生した石川県能登地方を震源とする震度７の強い地震、今も不明者の捜索が続くなか、お亡くなりになった方々に深く哀悼の意を捧げますとともに、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げます。

さて、昨年末から年始にかけて、大きなスポーツのイベントが開催されていました。その中でも特にこの季節は、多くの駅伝競争が全国で開催され多くの選手がその脚を競い合いました。テレビで放送されたものだけでも、全国高校駅伝から始まり、大学、実業団、都道府県対抗等々日本人の駅伝好きはやはりその伝統と、一人で競技するのでなくチームで、たすきを繋いでいく、そして順位もめまぐるしく入れ替わる、そんな内容と力の限りを発揮する選手たちのひたむきさ、そのチーム愛と頑張りに対して賞賛を贈る日本人の声援が、これを益々盛んにしていく、これらは本当に日本の冬の一大行事「風物」歴史財産の一つとなっている。その中でも人気の高い、大学箱根駅伝は毎年、多くの歴史的記録や感動を作ってきた。

そして、今年なんといっても地元旭町の川勝悠雅君が国士舘大学の代表として、昨年に続いて見事に出場されていました、箱根９区テレビ中継された権太坂を立教の選手と競り合う姿に見入ってしまいました。町民の一人として誇らしい思いでした。

出場する選手一人ひとりに歴史があり、生まれた環境や育ってきた環境、それぞれの中に本人の努力と、周りのサポートで今この場に立っている、大会という華々しい舞台に登場し観衆からの歓声と喝采を浴びている、選手達は苦痛の表情を浮かべながらも、今までの努力の成果を観衆に見せる姿は実に誇らしく輝いている。

多くの人に見てほしい。声をかけてほしい。感動を感じてほしい。これがスポーツのなせることなのだと今更ながら思う。

先日、都道府県対抗男子駅伝が中継されていた、多くあった駅伝大会も今シーズンは最終かなと思われる。これからは春のスポーツシーズン、プロスポーツの幕開けも近づきます。

年初めの地震災害の一日も早い復興を願うとともに、平和の象徴ともいえるスポーツが、今年も例年どおりに各地で開催されることを願いたいものです。

旭町自治会長　吉　川　　肇

令和６年１月２２日（月）京都新聞　凡語より

【（略）バス路線の撤退と運転手不足が続き、地域では「陸の孤島」の危機感が広がっています。少子高齢化が引き起こす「生活の足」の先細りが深刻な問題となっています。ただ嘆くだけではなく、共助・公助の道を模索する必要があります。】

　我が旭町も同様の状況に直面しており、これは私たち自身の問題として捉えるべきです。
既に「サポートカー事業」を共助の一環として運行していますが、皆がこの現状にどれだけの危機感を抱いているか、不安を感じざるを得ません。

　「サポートカー委員会」では、より多くの方が利用できるように、安全かつ楽しい待ち時間を提供できるようにさらに工夫する必要があります。

　２月２６日（月）サポートカー拡大委員会を開催します。ご意見やご提案をお聞かせいただければ幸いです。
ともに協力して、地域の不便を解消するための取り組みを進めていきましょう。

京都新聞
1月22日
月曜日

1月22日
凡語

村に町を走るバス路線の撤退で立ち往生する、「ふら、どうなることか」と嘆き節が聞こえてくる。蛙と「いちにたにんぐるるんス」は都都逸女子大で長年教えた国語学者の故中山正安さんの作品。「とぼけた味わいがある」と古い絵本を買い出したのは、1日傳のことだった。コロナ禍が故郷に思い行きを広げ、運転手不足を深刻になっている▼木津川市では路線バスの休止方針を示した。昭和元年に始まった住民の中には運転免許を返納した住民もいて、「陸の孤島になってしまう」との声が上がった。明日はわが身、という地域はあちこちにある▼事業者に事業の少ないバスを走らせ続ける体力はない。行政の提助でしのぐにも限界がある。根い手不足は他の業種も同じだ。解は官頼で成せる「ライドシェア」が解禁となれば、バスの代わりになるだろうか。「生活の足」の先細りは、少子高齢化が突きつける問題の縮図と言える▼バス停には「模範的な利用を」と市のチラシが張ってあった。「写真はどうなると思う」と言いたかりたいらしい。不便を和らげるための共助、公助の道を探っていくほかあるまい。

まほろば・亀岡かわひがしフォトコンテスト　審査会

令和６年１月２５日（木）フォトコンテスト審査会が千歳町自治会で行われました。８４点ほどの応募があり、どの写真も川東の魅力を表す写真でした。フォトコンテストの審査結果は２月６日（月）に発表となります。お楽しみに・・・

旭町自治会　インスタグラム開設

旭町自治会ではホームページ、LINE・フェイスブックに続き、インスタグラムも開設しました。いろいろな方向から旭の魅力を知っていただこうと思っています。QR コードをご利用ください。

ホームページ・・・　　**LINE・・・**　　**インスタグラム・・・**

ASAHIJITIKAI

主な行事予定

令和６年　２月１０日（土）　亀岡　オーガニック農業スクール開校式
　　２４日　（土）　「まほろば・亀岡かわひがし」ウォークラリー
　　２５日　（日）　特別感謝デー　なごみの里あさひ　午前９時から
2 月 26 日（月）～3 月 1 日（金）
　　フォトコンテスト入選展示　亀岡市役所内

本年度自治会だよりの「テーマ」記事から

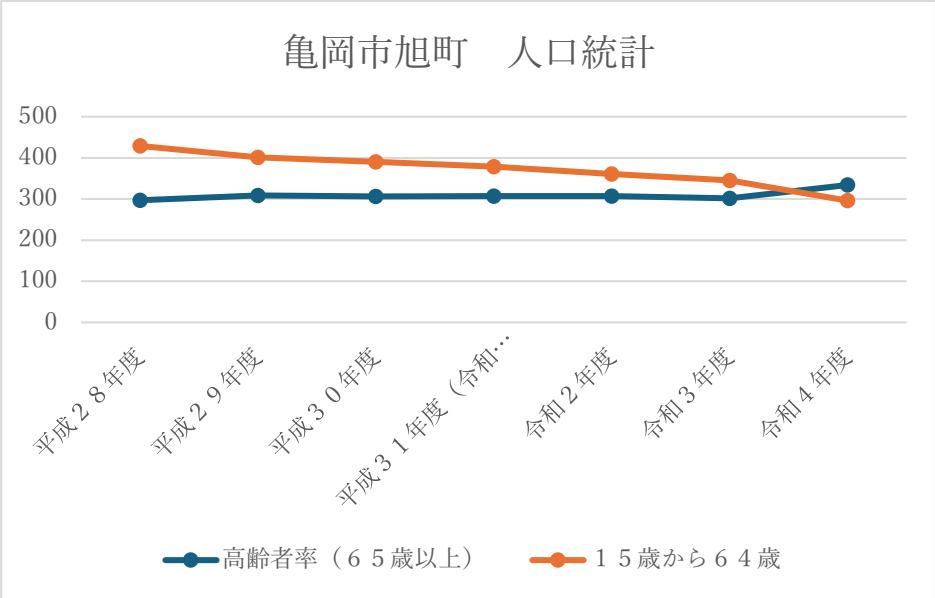
今年度旭町自治会だより 10 の記事「テーマ」

1. 高齢化が進む旭町　活気ある旭町に向けて
2. 「安心・安全」を第一に　旭サポートカー運転者講習
3. 住民居場所づくり　～コミュニケーションの場～
4. 旭の未来ロードマップ「夢絵巻」取材第１弾
   「できたらいいなぁマップ」
5. 旭「夢絵巻」から生まれた　組織
   「ふるさと街づくり連絡協議会」
6. 「旭サポートカー」 運行２年目を迎えて

7. 旭町の主要産業を支え活性化に取り組む
   「農事組合法人　旭」
8. 旭の農業を守り育てる　　「農事組合法人　旭」

9. 旭町へ移住促進のための 制度について
10. 「ゼロ時予防」「地域のつながり」で元気な旭町を

「これから こうなったらいいな～」という思いや、旭町を活性化しようとしている団体に様々な取材をさせていただきました。これらが、「旭町の活性化」の大きな力になっているのだと思いました。しかしこれには 人の力が必要となってきます。そのために、老若男女関係なく住民一人一人の協力が大きく影響してくるのではないでしょうか。



先日　７年前の資料を見ていたところ、旭町の人口が 760 名余りいたのが現在の人口は 660 名余り。たった７年で１００名余りの人口減となっていることに 言葉にできないほどの衝撃を受けました。高齢化が進む中で、取材したこれらの活動が「笑顔でくらせる街」・「みんながイキイキ暮らせる街」、将来的には人々が戻ってくるような魅力的な旭になることが夢です。

これからも旭町の魅力を紹介し、旭町の現状などを積極的に「テーマ」として紹介できたらと思っています。そしてその記事を読んでいただいた方々の元気の後押しが出来たらと思っています。